

外観



キャンパスのシンボルタワーとなる高さ約100mの本館（研究棟）および、グローバルコンベンションホールを新設。2012年の1期工事に竣工した講義棟、厚生棟と上空通路でつながれている。

グローバルコンベンションホール 男性トイレ入口



男性トイレ入口手前の壁面には、同大学卒業生であり、名誉博士の日本画家平松礼二氏による作品が展示されている。

グローバルコンベンションホール 男性トイレ



小便器まわりは、ダウンライトによる照明計画で落ち着いた雰囲気。小便器の向かいにある大便器ブースは、未使用時に扉が15度開くように設定されており、混雑時でも一目で空きが確認できる仕様となっている。

内観



〔写真上段〕グローバルコンベンションホール内観。〔写真下段〕本館（研究棟）内観。高層棟なので、上階からは、室内からも周辺景観が一望できる。

グローバルコンベンションホール 男性トイレ



木目調を基調とした落ち着いたトイレ空間。自動水栓、水石鹸、ハンドドライヤーの基本設備が完備されている。

グローバルコンベンションホール 男性トイレ



大便器は、1期工事と同仕様のパブリック向けウォシュレット一体形便器を採用。ウォシュレットのリモコンは、電源不要で操作しやすいエコリコモン。入口が一番近いブース1ヶ所には、L型手すりを設置。

グローバルコンベンションホール 女性トイレ



女性トイレは、限られたスペースだが機能的な仕様。コンパクトで機能性に優れた洗面器を採用。洗面スペース横に設けられたパウダーコーナーには個別鏡と全面鏡を設置、集中利用時でも効率的利用が可能。

本館（研究棟） 基準階 男性トイレ

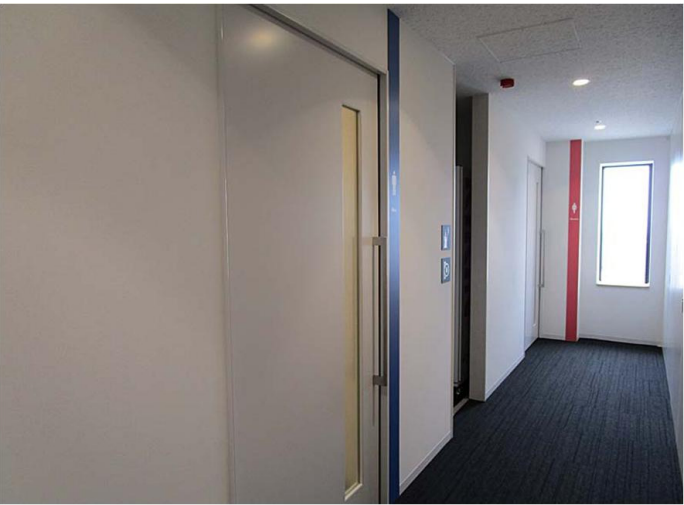


1期工事と同じく、白を基調とした清潔感のある内装。ハンドドライヤーやダストボックスも壁に埋込めこまれ、すっきりとした空間を実現している。

建築概要

名 称	愛知大学 名古屋キャンパス 本館（研究棟）・グローバルコンベンションホール
所 在 地	名古屋市中村区平池町4-60-6
施 主	学校法人愛知大学
設 計	株式会社日建設計
施 工	株式会社鴻池組
竣 工 年 月	2016年12月

本館（研究棟） 基準階 トイレ入口



各階トイレは、アプローチしやすいエレベーターホール横に位置する。集中利用時などにおける出入口まわりの混雑に配慮し、出入口は引戸仕様となっている。

本館（研究棟） 多機能トイレ



多機能トイレは、本館（研究棟）の中でも外部利用者が多く予想される1F、3F、5Fの3ヶ所に配置。1Fには、乳幼児連れ配慮としてベビーシートも設置されている。

水まわりの特長

＜建物の特徴＞
愛知大学の名古屋キャンパスは、2012年名古屋市が国際交流拠点と位置付ける「ささしまライブ24地区」に開校。これまで分散していた5学部を名古屋キャンパスに集結し、総合的な教育研究体制が整えられた。このたびの2期工事では、同敷地内に本館（研究棟）とグローバルコンベンションホールを新設。既設の厚生棟・講義棟とともに4つの建物が上空通路でつながれ、教育研究や課外活動に必要な機能を効率的にレイアウト。さまざまな出会いや交流を生み出すグローバルな都市型キャンパスの完成に至る。1期工事同様、環境にも配慮されたエコキャンパスとして研究棟は外壁に自然換気システムを採用。屋上・壁面緑化によるCO2削減等も実現している。
＜トイレの特長＞
1期工事と同様の仕様にならない、本館（研究棟）では白を基調とした明るく清潔感のあるトイレ空間を実現。また、4ヶ国語対応の同時通訳ブースが設けられ、600名収容できるグローバルコンベンションホールのトイレは、木目調をベースとした落ち着いた雰囲気の内装に仕上げ、国内外からのさまざまな来訪者を想定した、おもてなしの空間を実現。さらに分かりやすく、使いやすい操作ボタンが特長の電源不要のエコリコモンを採用している。